令和６年２月 29 日

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」
第 86 回（通算第 165 回）定例会　会議録

◆日　時：令和６年２月 20 日（火）　PM7：03～8：40
◆場　所：田辺市民総合センター　１Ｆ　機能訓練室
◆出席者：　19　名　＋オンライン９名
別紙のとおり

１．「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：03～20：40】

19：03～　　開　会

19：03～19：05　　情報提供
映画「明日香に生きる」上映会

19：05～20：10　　「被災地支援と受援」報告①
報告者：和歌山県薬剤師会　　山下　真経氏

20：10～20：40　　「被災地支援と受援」 報告②
報告者：和歌山県介護支援専門員協会　　石崎　千穂氏

20：25　　閉　会

【報告内容】

●被災地支援と、受援について考える

・道路とライフライン

→災害が起こると、普段から簡単に行けないところは、さらに不便なところに。普段から、移動手段なども考えておく必要がある。

今回の被災地は水以外は早期に問題は解消。ただ、現金はあったほうがいい。

・支援場所

→DMAT の支援場所の近くにモバイルファーマシーを配置。

どういった流れでヘルプするのか、地区の避難場所の把握、何を支援してほしいのかそれらを集約する必要がある。

和歌山県のモバイルファーマシーの強み：患者のデータがきちんと管理できる、薬袋もつくれるし普段と一緒の調剤ができる。レセコンもある。

・受援

→普段から訓練をしておかないと、何を受援してもらいたいのかわからない。

普通に仕事ができるということがどれだけありがたいか気づく。現地のスタッフや関係者はすごく疲弊している。でもその人たちが何をしてほしいのか、的確に伝えられないと受援に来た人が困る。

支援者の休む場所の提供も。

必要な支援の的確な提示のために、各自がバラバラではなく、中心的なところに集約して指示をだす。

・支援方法

→クロノロの記載は非常に重要。誰がどこにいったのかも含めて書いておかないと、戻ってきたかどうかの確認ができない。(二次被害の防止)

インターネットがつながれば、電子ツールの活用が可能。

支援する人がわかるように避難所のマッピングが重要。パっとみてわかるものを本部においておく

・避難所

→細かい避難所が無数にあった。小規模なので、人が殺到していた。

今回の被災地では、1.5 次避難所ができた。二次避難所へ行くまでの人を収容する場所で、介護の必要な人を選別して、行き先を県庁が中心になり、探していた。

介護福祉士なども多く来ていたが、まだまだ足りない感じ。医療従事者はさまざまな団体が来ていたが、福祉職種はまだまだ少ない。ただ需要は多い。

・環境衛生

→CO_2計を持参し、換気のチェックを実施。避難所のリーダーは換気の必要性を理解し、定期的な換気を実施したいが、寒さのため拒否されることも。そのため、第三者が数字を見せて理解してもらうようにした。このことは、現場リーダーの負担を減らす役割にもなった。

トイレの整備：ラップポンが非常に有効。電源はいるが、衛生的。約 15 万円。

・医療の環境

→比較的早くに開業医や薬局が動き出したが、もともと応需できる医師が少ないのは課題。患者のニーズに対応しきれない。

地域での訓練の実施が重要。何度も繰り返し、いろいろなパターンで経験を積む。

そのためにも普段から他業種との連携が大切

山下先生より

「支援活動に行くことで、受援のイメージがわく。機会があれば行ったほうが、人生のプラスになる」

※定例会開催にあたっての感染症対策

・体調確認と必要に応じて非接触型温度計による体温測定

・手指消毒・換気
・ＺＯＯＭを活用したオンライン研修

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：令和６年３月 19 日（火）　午後７時～

場所：田辺市民総合センター　1F　機能訓練室

内容：未定